

ライフサポートひなた

症 例 概 要 利用者：70歳代 女性 介護度4

利用期間：2026年3月～

既往歴：水頭症の術後 くも膜下出血 脳梗塞 高脂血症 卵巣腫瘍

経過：2025年6月椅子から転落、救急搬送。頭部CTにて脳動脈瘤破裂によるクモ膜下出血と診断。同日開頭クリッピング施行。合併症で血管攣縮による脳梗塞発症。水頭症あり8月VPシャント施行。9月竹川病院に転院。左麻痺軽度で腋窩介助で歩行可能。高次脳機能障害(注意障害)にて気が散る為、転倒リスク有。話に注意が向いていれば理解は可能だが、すぐ別の事に意識がいきってしまい会話がかみ合わなくなることもある。更なるリハビリ目的で当施設入所となる。

内 容

入所当初は慣れない環境からか、「トイレはどこにあるの?」「失敗したら迷惑をかけるから」など、施設生活に対する不安が強くみられました。食事以外の時間は居室で過ごされることがほとんどで、活動量の低下が課題であると考えられました。

そこで、ご本人の生活史を踏まえ、多職種でカンファレンスを実施しました。その中で、「人のために行動すること」や「役割を担うこと」が、ご本人の意欲や尊厳の回復につながるのではないかと考え、役割の提供を開始しました。

日常生活の中で能動的に取り組めることが習慣となるよう、食事や集団リハビリの後などに声掛けを行い、毎日決まった時間にテーブルや手すり拭きを実施していただきました。徐々にフロアで過ごす機会が増え、他ご利用者と談笑される様子も見られるようになりました。

その後も取り組みを継続する中で、声掛けをしなくても自発的にテーブルや手すり拭きを行われるようになりました。また、集団リハビリが始まる時間には、他利用者様に参加を声掛けして回るなど、活動的な姿が見られるようになりました。

元々登山がお好きだったこともあり、「また緩やかな登山とかハイキングくらいから行けるようになりたい」と、今後の生活への希望も聞かれるようになりました。活動量の増加に伴い歩行状態も安定し、独歩自立へとADLも向上しました。現在では外へ散歩に行くこともできるようになり、不安を訴えることなく、安心して施設生活を送られています。

当初は施設方向で考えられていましたが、現在は在宅復帰を予定されています。

その人の生活史に沿った役割を提供し、ご本人の意欲と尊厳を支えながら在宅復帰への可能性を広げた今回の事案を、キラキラ介護賞に推薦いたします。